

教育長だより No. 26

2022年1月24日

アンテナを高くする

学級経営のコツはいっぱいあります。これもその一つ。私も聞いて育ちました。今回は、6年前に出したものを修正しました。

1. 実態把握(まず、クラスの現状を知ることが一番目のスタートです。)

子どもたちが何を考えているのか、子ども間でどんなことが広がっているのか、どんな関係ができているのか・・・これらを知る手がかりをたくさん持ちましょう！

最終的にはクラスの間関係図(相関図)がかけられるようにしましょう。

※ 先生の実践例：話しこみ、教育相談、アンケート、家庭訪問、日記、班長会議、おしゃべり、遊び(長休み・昼休み等の子どもの遊びに先生が入ることもそのきっかけになります。)

2. 子どもとの信頼関係づくり

信頼関係を築きましょう。そのために、クラスのいろいろな子に声をかけましょう。廊下を通っているとき、給食で先生が班をまわって食べる時や掃除など。まずは雑談から始めましょう。

3. 「ちくる」と「相談する」の違い

悪いことをしているのを先生に言うのは『ちくる』や『言いつける』のではないと、常に学級で話しておきましょう。「その子のためにも、また、みんなのためにも、先生に相談するのは大事なことだ。」「いいことだ。」「これはおかしい。」「〇〇さんの様子が心配だ。」「〇〇さんがこんなことを言っていた。」「注意できなかった。」など、気になることは担任に伝えてほしい。→ クラスのみんなが、集団でよくなっていこうとする雰囲気作りを！(一方、子どもが直接その子に言えることも大切です。)

4. マイナス言葉の一掃を！

教室の中に蔓延(まんえん)するマイナスの言葉。これを、放置していませんか？「まずい」「きしょい」「きもい」「ずるい」「おもない」など、『こんな言葉はいやだ！』という学級文化を創りたいです。もっとこだわりを持ち、「どう思う？」と、クラスで丁寧な話し合いをして、子どもたちが自分から気をつけたり、「やめよう」と言い合えるクラスをつくっていきましょう！…何事も気づいたときがスタートです。先生からは「プラスことば」のシャワーを！

5. わけのわからない言葉も一掃！

クラスに「わけのわからない言葉」が飛び交っていませんか？ 暗号化した子の悪口(いじめ)であったり担任への中傷だったり、それで傷ついている子はいませんか？ 逆に本人には気づかれることなく、いじめる側がそれを楽しんでいる事があります。敏感にキャッチして、どんなと

きにその言葉が出ているかを確認しておき、十分にわかってから明らかにして指導しましょう。

※追加…学習環境にも気を配る。=まず、私たち大人が「気づく」ことから

- ①教室にゴミは落ちていませんか？ また、帽子や鉛筆、雑巾などは？ 係活動にしてもOKですね。
- ②子どもの机はちゃんと並んでいますか？ 子どもが自分で気づいて並べ直しやすいように、床にテープやマジックで印があるといいですね。そんな学級をいくつも見かけます。いいですね。
- ③エアコンが入っていると換気を忘れがちです。特に寒い冬場の今、暖房は大切ですが、「コロナ」対応のため、休み時間や昼休みの空気の入替を保健委員や日直の仕事にしてみてもいいですか？
- ④教室の前面掲示は特別支援の視点から何も無いと思いますが、教室の後ろのカウンター（水筒や学級文庫）、さらには、先生の机の上や戸棚の上は整理されていますか？
- ⑤掃除用具は整理されていますか？ また、ゴミ箱は満杯になっていませんか？ ベランダにゴミや雑巾、石などが落ちていませんか？ 上手に係活動に組み込んでいる学級があります。ナイスです！

これらに子どもが気づいたら ⇒ その場ですぐにほめる！

その子の自尊感情を高め、また、いい学級にもなります。